

実りの秋、収穫祭の秋!

# Radixの会農産会員の 収穫祭

## Report

実りの秋。Radixの会農産会員さんから各地で収穫祭開催の声が聞かれます。設立10周年の節目に初めて消費者へ呼びかけをした群馬県昭和村の野菜くらぶ。そして今年8回目の開催となった群馬県倉沢村のくらぶち草の会。関東近郊ということであって、いっしょぼーやの「お話しサラダEAST」でも開催案内がなされた2産地の収穫祭をご紹介します。

### 野菜くらぶの収穫祭(10月19日)

野菜くらぶ10周年を記念する今年、初めてらでいっしょの会員さんをはじめとする消費者を招きました。参加費はなんと無料!「感謝の気持ちだから。メンバーで話し合っただけで済んだ」とは聖護院大根などを出荷している林美之さん(Radixの会農産部会関東ブロック委員)。

受付後、生産者の先導で収穫体験へ。色づきはじめて雑木林を抜け、まず大根、次はレタス、そしてほうれん草…メンバーが待つ畑へ順繰りに回ります。包丁で恐る恐るレタスをさく切り切り、鎌を少し土の中に入れてほうれん草を切り出す。収穫した分は持ち帰れるとあって参加者は大喜び! 普段届く野菜はこんな景色のなか、こんな人たちに育てられたものなんだなあ、と改めて実感。

収穫体験が終わると会場へ。そこにはトラックをステージにバンド演奏が(ら



抜いた大根はお持ち帰り!

手づくりの釜焼きピザ(これがおいしい!)や本場中国の水餃子、タイ風お好み焼き、インドネシアナシゴレン、そしてメンバーが栽培する野菜のサラダバー。おにぎりは地元川場産こしひかりなど、なるべく自分たち、そしてその土地の食材を使いたかった、というこだわりがみられます。

東京から参加したらでいっしょぼーやの会員さんは、「『お話しサラダ』の案内

でいっしょぼーや農産部仕入課課長潮田氏のバンドも)。アジア各国から研修にきている従業員による

をみて、子どもたちにいいかなと思って参加しました。畑での収穫とつても楽しかった!。最後は生産者とのじゃんけん大会で野菜がもらえるとして、約350名の参加者は大盛り上がり。子どもたちに昔の遊びを体験してもらおうと家の裏から竹を切り出し、竹馬や竹とんぼを丸1日作っていた林さん。「竹とんぼ200本も作っちゃって、いやあ疲れたよー」と言いながらも、参加者の笑顔に喜びが隠せませんでした。(事務局・島田)



野菜くらぶの活動に共感し、ぜひ演奏したいとYASKIというバンドもかけつけた

### くらぶち草の会の「収穫祭2002」(11月3日)



今回からグループで栽培している野菜の展示コーナーを設けた

生産者、消費者、地域住民の交流の場としてスタートした収穫祭も今年で8回目、おかげさまで年々参加者も増え、昨年、本年とも総勢三百数十名となりました(本年ご参加いただいた、らでいっしょぼーや様の会員の方は45世帯、約120名)。いわゆるリピーターの方も増え、「我が家の年中行事で、毎年楽しみにしております」とのお便りも、数多くいただくようになりました。残念なのは、こ

こ数年参加希望者数が多く、一部の方にはお断りせざるをえないということ。

標高約800m、晴天のもと、浅間山を遠くに臨むログハウス前での収穫祭。次々に用意される、黒豚肉のバーベキュー、手打ちうどん、赤飯などの料理は、例年どおり大好評。昨年からは始めたゲーム大会も楽しんでいただけたようです(生産者、消費者にお答えいただいたアンケート結果を、クイズ形式で皆さんにご参加いただくもの。例えば、本日参加された皆さんの一番好きな野菜はトマトである。○か×か?などなど)。

お腹が満腹になった子供たちは、土手を滑り台にしたり、稲ワラを敷き詰めたスペースで大ハシャギしたり、初対面の子供たちと手をとりあって収穫後の圃場を走り回っていました。自然は子供たちの友達でもあるようですね。

食品の偽装問題、無登録農薬の使用問題など"食"をめぐる問題は噴



恒例の餅つきは、やはり人気です。

出してくれている今日この頃ですが、問題の一因は、生産者、流通業者、消費者それぞれが社会的な分業体制の中で自らの利益の枠の中に閉じこもってしまい本質的な交流の場が存在しないことにもあるように思われます。本会収穫祭がそれらの問題解決の役割を担うことはとてもできませんが、その一助となるべくできる限り継続してゆきたいと思っています。

11月3日は、楽しい一日でした。(くらぶち草の会事務局 大河原充さん)